さな不恰好な體格や、喫煙者の子女等が苦痛の一生を終る事や、早逝するやうな事は皆其父母より繼承せし肉體の虚弱なるに基因するものであります。

或處に極く考へ違ひの娘がありまして、大の煙草好きな男と結婚しました。すると子を産むやうになつたところが、産んだ子は死に、産んだ子は死に、三人まで死にました。是等不幸なる三人の子供は皆幼兒の麻痺で倒れました。之れ其良人が大の喫煙家であつた爲めに其害毒が小供等の身體を殺したのであります。其婦人は初めて自分が喫煙家と結婚した事の間違つて居たことに氣付きました。そして死んだ子供ばかりでなく自分が毎日毎夜其良人の喫する煙草のニコチンで中毒された室内の空氣を呼吸して甚だしく苦められ、遂には其健康までもいたく害せられたことに覺醒し、如此の喫煙者と結婚した事を深く悔い、悲しき一生を送つたと云ふことであります。

蚊と蚤

神尾曠子

世の中には吾等人間に危害を加ふる昆蟲所謂害蟲は、決して少くはありません。あぶ、はい、はち、毛蟲等は皆害蟲に屬するものでありまして直接間接に人體に害を與へます。例へば蠅は傳染病毒を傳播する危險な媒介者となり、毛蟲は其成蟲こそは罪もなく空中に飛翔する美しき蝶でありますが幼時は種絲野菜其他の植物の葉を食ひ盡して大害を與へます、また「うんか」と申します昆蟲は稻作に大害を釀す害蟲であります、併し是等は何れも間接に人間に害を與ふるものでありまんが、蚊と蚤とは直接に人間を襲ひ、其血液を吸ふて生活する、いはゞ恐るべき害蟲であります。

蚊と蚤とは一寸見た所では一方は翅を以て空中を飛翔し、一方は長い強い足を以て跳びまはり、一方は灰色がかつたうす穢い蟲で、一方は眞赤なすべ〳〵した蟲でありまして、大層異つた蟲でありますが、動物學から見ます時は雙方共に人の血液

を吸ふて生活して居る所や、及び其構造の點から此れは昆蟲仲間でも同じ種類の雙翅類と申すものに屬して居りまして、蠅、あぶ等とも親類になつて居ります。斯樣申しましたならば翅のある蚊と、翅のない蚤とが親類とは誰も不審と思はれませうが、然しよく詳しく檢査して見ますると、蚤も小さな翅をもつて居ります、それは極く小さな鱗の樣なものでありまして、空中を飛ぶ役にたゝぬばかりであります。此點に於て此兩種の雪と墨の樣に懸隔して居る昆蟲が同じ種類に屬するのであります。猶其構造を精細に觀察し其生涯の經過を研究して見ますれば、通常の人の夢にも見る事の出來ない奇觀で御座いまして、其の憎むべき敵である事を忘れしむる程であります。

人間の血液を吸ふて生活する昆蟲は蚊と蚤ばかりでは御座いません、虱、毛虱、南京蟲等も之れでありますが、是等は唯人の血液を吸ふに止りまして、蚊や蚤の樣に恐るべき傳染病の媒介をする事は少いものであります、たゞ信濃の木曾川の流域に產する「あかむし」は恙蟲病と申しまする病氣の傳播を媒介するそうであります、でありますから此所には主に蚤と蚊とに就て御話いたしませう。

一、蚊

蚊と申しましてもいろ〳〵ありますが、最も普通のものは晝間は暗い所に潛伏して居て、夜になると出て來て人を刺すものであります。其外「やぶか」は晝間人を刺す大きな蚊でありまして、足に白い輪紋があります。我々が最も注意を要するものは「アノフエレス」と申す一種の蚊でありまして、晝間も夜間も出て人を刺し、かの恐ろしい瘧（マラリア熱とも間歇熱とも申します）の傳染を媒介するものであります。またある一種の蚊は九州殊に大島地方に流行する「くさ病」（フキラリアと申す寄生蟲の爲めに起る病氣であります）の媒介をいたします。

先づ普通の蚊に就て御話いたしませう。其外形は諸姉の御存じの通り灰褐色の細長い蟲で、其の足は極めて長く三對ありまして、止まる時は後脚は地につけないで居ります。翅は二枚ありまして其の下には大皷の撥形のものがあります。通俗に

「あぶ」の眼といふものと同じものでありまして、空中を翅ける時に體の平均を取る爲めの道具なそうであります。

少し度の強い蟲眼鏡で之を見まするとと、肉眼で見た時とは大變な相違でありまして、全身に細いあまり長くない毛が密生して居りまして、恐しい樣なものであります。猶其毛の外には圓扇形の鱗が生えて居ります、蚊をつぶした時に手につく粉末は此の鱗であります。頭には一對の大きな眼があります、之をよく見ますれば網の眼の樣な構造をもつて居る事が知れます。其詳細は略しませう。

蚊の口吻、少し強く攫む時は直ぐつぶれてしまふあの軟かな體をもつて、よく我々の強い皮膚を螫す其の口は如何なものでせうか、之れは人の知りたい事であります。御存じの通り蚊の口吻は細長い絲の樣なものでありますが、蟲眼鏡でよく檢査して見ますれば、實に精密なる構造をもつて居る事がわかります。即ち外にあるものは鞘でありまして、中には外科醫の持つて居る樣な種々のものを具へて居ります。即ち此鞘を開いて見ますると五本の軟かな極めて細い針が出ます、中二本は三稜の劔でありまして、先端少しく反り、反りたる背の方に刄の細かき鋸齒をもつて居ります。之れが即ち人の皮膚を傷けるに必用なものであります。他の三本は眞直な針でありまして之を傷口より刺し込んで血を吸いあげるのであります。元來是等の針は軟かなものでありますが、外側に鞘がありますため容易に皮膚を傷ける事が出來るものだそうであります。是等の武器は頗る細いものでありまして、之を縫針に比べまするとと、丁度劔と針との比位の割にあたります、でありますから人を刺した傷は極めて小さく殆ど見る事が出來ません、痛みもなければ痒みもありません、併し暫くしまするとと其所は腫れて來て痒みを覺えます。

蚊の毒、此の痒くなり且つ腫れてくるのは蚊が一種の毒を注入する爲めであります。抑々人間の血液は血管の中にある間は流動する液體でありますが、其外に出ますれば間もまく凝固して固體となります。固體となりましては蚊は之を吸ふ事が出來ません故に、蚊は血液の凝固を妨ぐる一種の毒

をもつて居ります。人を刺した時には先づ第一に此毒を注射し血液の凝固するのを防ぎます、此毒が即ち人畜に有害なものでありまして、之を除き去る事は困難であります、腫れ上り、痒みを覺ゆるのは此毒の爲めであります。之を搔く時は益々毒を擴げて害を大にするものであります。アムモニア水か、清水で洗ふ時は少しは痒みを軟げ、腫れるのを防ぎます。

人を刺す蚊は雌であります。人を刺し、人の血液を吸つて生活して居るものは雌であります。雄は人の血を吸いません、主に花の汁や酒、砂糖等を吸ふて生活する上戸下戸兼帶のものであります、でありますから雄が人家に來る事は少いものでありまして、多くは一生叢林中又は沼澤等に近く住んで居ります。雌も血液を充分吸ふ事の出來ない時には酒砂糖等を副食物にいたす事があります。雄と雌とは如何程異なるか、と申しまするに雄は一般に雌より少さいもので、頭には一見二對の羽の樣な觸角を持つて居りますから容易に雌と區別する事が出來ます。夏日燈火に迷ふて來る小蟲の中には澤山混じて居ります。

蚊の生涯、總て昆蟲は卵から成蟲になるまで三階の時代を經過いたします、即ち卵から孵化したものは幼蟲と申しまして翅も持たない最も盛んに成長する時代であります、鱟、毛蟲、蛆等の類であります。次の時代は蛹と申しまして食物も取らず又多くは運動もせぬ時代であります。第三の時代が即ち成蟲として翅をもつて飛び出す時であります。此時代は主に生殖をする時期でありまして成長する事はありません。蝶の花間を飛びまはるのも、蟬が炎天になくのも皆交尾產卵の目的をもつて居るのであります。

蚊の卵、蚊は生熟しますると桿棒狀の卵を產みます。之は數十個づゝ頭を竝べて水面に浮べるのでありまして、一疋の雌の生む卵の數は實に三百に達します、夏の日吾々の周圍に襲い來る蚊軍の多いのも無理のない事であります。此卵は凡そ二週間位で孵化して幼蟲となります。

蚊の幼蟲、之れは御存じの子子でありまして、停水、餾り水、溝梁、天水桶、或は沼池等に生活して

居ります。俗に子子がわいたと申しますが、凡て昆蟲は獨りでに涌くものではありません、皆卵から孵るのであります。此子子も卵から孵つたものでありまして屈伸して巧に水中を泳いで居りますが猶空氣を呼吸する蟲でありますから、いつでも水面に浮んで居て、其後端にある氣管を水の外に出し呼吸を營んで居ります。頭は大きくて水中に沈んで居ります、二つの大きな眼と一つの口とをもつて居ります。其食物は水中に居る小動物、腐敗せる物小植物等であります、でありますから子子が長く住んで居ります時は其水が奇麗に清みます、此點に於て子子は寧ろ益蟲といはねばなりません。

蛹、は其幼蟲に似て居りますが頭がもつと大きいので通常鬼子子と申して居ります。其呼吸する氣管孔は尾端にあるものでありませんで、背の眞中にありますから、蛹は水面に浮んで此所を出して居ります。子子が蛹になる迄は二三週間かゝります、更に之が成蟲となりますのは一週間の後であります。

成蟲となる時は蚊の一生の中の最大危機でありまして、水棲のものが空中に飛び出す其の危い刹那の有樣は極めて面白いのでありますが、あまり長くなりますから省略いたしませう。

「アノフエレス」羽に斑紋がありますから羽斑紋とも申します、普通の蚊と異なる所は羽の斑紋と、其休止する時の樣子で、普通の蚊が止まる時は其の體は水平でありますが、羽斑紋にては頭を地を近け、尻を高く立て、所謂『しやちほこだち』をして居ります。其幼蟲は主に水草などを食ふて居ります。其蚊も大抵何所にも居りますが、東京には殊に不忍池近傍に多いとかいふ話であります。蚊と傳染病、蚊の媒介する傳染病は前にも申しました通り瘧即ち「マラリア」と「フキラリア」とであります。「マラリア」は人の血液中に住んで居る一種の下等生物でありまして、其卵は蚊の血を吸ふ際に血と一所に其胃の中に達し、此所で發育して幼蟲となりまして、それより胃壁を破り、其の唾腺に入りて居ります。其蚊が再び他の人の血を吸ふ時は其唾液の中に混じて血液の中に注射され、

盛に播殖して瘧を起すのであります、此の「マラリア」を媒介する蚊は「アノフエレス」ばかりでありまして、他の普通の蚊の胃の中では「マラリア」の幼蟲は發育いたしません。

「フキラリア」とは長さ二三寸の細長き絹絲の樣な蟲で、人體内に棲て居りまして澤山の子供を產みます。此子供は皆血液の中に出て參りまして、蚊が血を吸ふ時其の胃の中に入り胃の中で發育し唾腺に出て唾液と共に他の人體に注射せらるゝものでありますが此の傳染を媒介する蚊は普通の蚊であるか、又は一種特別の蚊であるかは未だ確かにわかつては居りません。「フキラリア」が寄生して起る病氣は一寸「マラリア」に似た所もありますが、それよりは一種特別の症狀を起すものでありまして、熱と共に主に陰部殊に陰囊及び陰唇と足との皮膚が漸次厚くなる病症であります、九州では「クサ」病と申すそうであります。大島地方、天草地方に多い病氣でありますが我國には全國にある樣であります。また同じ「フキラリア」でも唯だ尿の色を牛乳の樣に變化する丈けの症狀を起す事もあります。

蚊の驅除、蚊は我々の血液を吸ふばかりでさへ充分嫌ふべきでありますが、殊に嫌ふべき病毒の媒介を致すものでありますから、其害をさける事は必要であります。其害をさける方法は種々あります。

蚊は高く飛ばず、蚊は何種類によらず高い所迄は上りません、でありますから三階の高屋には蚊が稀でありまず、二階は階下より蚊の襲擊を蒙る事が少いものであります。熱帶地方にては殊に惡性の「マラリア」が流行いたしますか、蚊の襲擊も頗る盛でありますから、土人は種々の手段を講じて蚊をさけるにつとめて居ります。其の土人の最も安全なりとする法は高き木の上に寢るといふ事であるさうで御座います。

蚊は明るきを好まず。蚊は常に暗い所を好んで、夜間人を襲ふに致しましても燈火の光の明るい所には來ず、机の下、椅子の下、屏風等のかげに徘徊して人を刺します、でありますから電燈瓦斯燈等を以て室内を充分に明るくするのも蚊の攻擊を

逃る、一法であります。蚊遣り、之れは昔から行はれた法で、松葉、杉葉杜松等を薫べたのであります。就中最も効のあるのは除蟲菊の粉末を薫べるのであります、ある地方では蠶糞を乾かして薫べる所もあります、支那にては松或は杜松の鋸屑に少量の硫黄と砒石末とを混じ、之を薫べるさうであります。

根本的驅除　蚊を絶對的に少くするには蚊の生活の道を斷たなければなりません。之れには子子の生活する樣な水溜りをなくするのでありまして、排水をよくし、溝をさらへ、雨水の溜る窪地を埋める等であります。是等の水溜りさへなかつたなら蚊は發生する事が出來ないのであります、高臺の地に蚊の少ないのは此爲めであります。又叢林には雨水が長く溜つて居る事がありますから、不必要な草木は成る可く除く事が必要であります。又池が大きくて之を埋める事の出來ない樣な場合には其中に魚類殊に金魚や鮒鯉等を放飼するは宜い法であります、是等の魚類は中に池發育した子子を食い盡す能を持つて居ります。

又溝渠の如きものには石油、バラフキン油等を注ぐのも子子を殺す一方法であります、即ち油の薄い膜が水面に出來ますから子子が呼吸する事が出來なくなるのであります。

其外自然界に蚊を取り食ふ動物即ち蚊の敵は、とんぼ、かげらふ、燕、よたか、あまがへる等であります。（婦人衛生雜誌）

西洋美貌法の今昔

A S 生

美貌とは何ぞや、一言を以てこの問題に答へることはむづかしいので、人類の美貌の理想は、すべての時代、すべての國民によりて色々に異て居る、今日もやはりさうでありますが、美貌といふ觀念は又明人に於きましては、その發達の低度な國民に比して遙に高尚で且つ純潔であることは勿論であります。

身體の美といふものは、その完全なる健康を外にしては、考ふることの出來ないものであるといふ